

《6月定例議会 町長所信表明 骨子》

少子高齢化や、更なる雇用の創出など、待ったなしの課題が山積し、これまでの取組みの単なる延長では持続可能な海士町の未来を築くことは不可能です。

役場は「住民サービス総合株式会社」で、住民が最も大切なお客様である、というこれまでの理念を貫き、新たな挑戦と攻めの姿勢で変化し続けるしかありません。経験を生かしながら町民の皆様と共に、オール海士の総力を結集し全力を傾注してまいり所存です。

産業振興関連につきましては、6次産業化へ向けた地産地商の取組みを着実に推進して参ります。

隠岐島前高校魅力化プロジェクトにつきましては、学校と地域の活性化を推進することを基本に、『新魅力化構想』を県知事と県教育長へも提言をしたところです。その要点は、グローバルな視野で地域の課題解決に取り組む社会起業家的人材を育成するモデル校として、地域の未来を切り拓き、未来につなぐ保・小・中・高・大の連携教育のブランド化で、若者や子ども連れの定住促進を目指すものです。

新しい取組みとして、内閣官房による『地域活性化モデルケース』として全国から33件が選定され、海士町もその一つに選ばれました。島を“未来づくりへの挑戦から学ぶ場”と位置づけ、全国や海外からの実践者・研究者等を受け容れ、各地に輩出する新たな地域づくり・人づくりのモデル形成を目指すものです。

議会の皆様はじめ、町民の皆様の一よりいっそうのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



新しくなった経営指針

【海士町議会議員 補欠選挙結果報告】

海士町長選挙に伴って海士町議会議員補欠選挙(欠員1名)が行われ、5月20日の告示日において立候補者数が選挙すべき人数を越えなかったため、扇谷光恵さんの無投票当選が決まりました。当選人は、5月25日の選挙会において正式に決定され、選挙管理委員会の片桐委員長より当選証書が手渡されました。

町の経営指針を変更した意味は

(山) 『自立・挑戦・交流く人と自然が輝き続ける島に』とサブタイトルを少し変更したのは、人も自然も日々の努力なくして輝くわけがない、ということと言いたかった。とにかく続けることが大事だということです。

これから海士町はどう変わっていくべきと思うか

(山) 住民一人ひとりがお互いに、人間としての成長をしていかねばならない。人を大事に、出合いを大切に。私自身、交流した相手に本気度が伝わるような生き様をしていきたいと思っています。

問われるのは“オール海士”の総合力であって、トップ一人が頑張っても何もできません。まず個人の自立があつて初めて町の自立がある、と考えていただきたい。海の士(サムライ)という名前はすごく含蓄のある言葉だどつくづく思います。『ないものはない』のプライドを胸に、一人ひとりがしっかりと立とう、と言いたい。

平成16年頃は、危機感の共有から島が一つになりました。今は、自分たちの島をより良くしようという希望でつながりたいと思っています。